

葱残渣の有効活用によるブランディング研究

Case 7

プロジェクトの経緯と付加価値の高い「機能性原料」の可能性

農林水産省は「農山漁村6次産業化対策事業実施要綱」(平成二二年制定)の中で、我が国の農林水産業の活力向上及び農山漁村地域の維持、存続のための解決策の一つとして「農の6次産業化」を推進しています。

「農の6次産業化」とは、1次産業である農林水産業に、2次産業、3次産業を融合させることにより、新たな付加価値を生み出し、新産業を創出することにより地域活性化を促す切り札とされています。

この受託研究は、国が進める「まち・ひと・しごと創生事業」に採択され、その交付金で運営されました。

圃場等に大量に廃棄される農産物(ネギ)の残渣等から、機能性の高い成分を真空低温技術で抽出すると同時に、その機能性を評価・検証し、抽出された有効成分を活用した既存の市場にない付加価値の高い「機能性原料」の創出に向けた調査・検討を行いました。



プロジェクト概要

●テーマ

坂東市の地元農産品残渣等の有効活用による新商品開発と観光等産業との連携による地域に密着した新ビジネスを創出する。

●パートナー

茨城県坂東市

●担当教員

田中 清章教授他

(現代生活学部生活デザイン学科)

●実施期間

平成27年8月～平成28年2月

製品開発とビジネスモデル

エビデンス(学術的根拠)を有した、付加価値の高い「機能性原料」を創出することによって、地域における更なる農業の振興及び新商品開発による新たな市場の開拓、そして雇用の創造につながることが波及的効果として期待されます。

今後は、高齢者の癒しやリラックス、鎮静など、近年の超高齢社会に対応する香料(商品)の具体化、ビジネスモデルとしての実現可能性も視野に入れた具体的な調査・研究が必要です。なお、本ビジネスモデルの事業化にあたっては、高齢者や障がい者、女性の雇用を積極的に行うことでき、地域再生効果も期待されます。

